

第 52 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	村澤ゼミ	チーム名	村澤ゼミ 3
タイトル	ジェンダー別の学力と家庭環境の効果の分析		
テーマ群	g) その他		
メンバー	安本 侑矢		
研究計画内容	<p>【研究目的・研究背景】</p> <p>これまで多くの研究で家庭環境が子どもの学力に影響を与えることが指摘されている。例えば、耳塚（2009）では全国学力・学習状況調査での子どもの正答率と世帯収入が関係していることが指摘されている。また、私自身が教育現場にアルバイトとして働いていると男の子と女の子では成績の伸び方などが異なっているという体感を持っている。そこで本研究では子どもの学力が両親の収入、学歴、子どもの将来学歴などの家庭環境にどのような影響を受けるのかを分析する。さらに、ジェンダーごとにその影響力の違いがあるのかについても分析を行い、学力への影響要因がどのようなものであるかを分析し、体感した成績の伸び方の違いについて数的根拠を明らかにしたいと考える。</p> <p>【研究内容】</p> <p>OCED（経済協力開発機構）が実施している PISA（Programme for International Student Assessment）のデータの中から日本にあたるものを抽出し、分析する。</p> <p>先行研究である神橋・大久保・永田（2019）を参考に PISA2018 を用い、PISA2015 との違いを考察し、ジェンダー差に焦点を当てていく。</p> <p>なお、データ分析の際には Gretl を用いる。また、使用するデータは OCED がホームページにて公開されている PISA2015 と PISA2018 とし、PISA2015 と PISA2018 の質問紙（日本語）は国立教育政策研究所のホームページに公開されているものを使用している。</p> <p>【期待される効果】</p> <p>PISA2015 と PISA2018 を用いることから、教育現場での感覚をデータとして明らかにすることができ、学力と家庭環境の影響を継続的に分析し、年ごとの変化を確認することができる。また、ジェンダーに焦点を当てることで学力決定因子の効果の性別差を明確にすることができると思う。</p>		